

平成21年2月

福本陽二 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 和 義
副主査 井 藤 久 雄
同 池 口 正 英

主論文

Clinical findings on fibroblast activation protein in patients with gastric cancer

(胃癌患者におけるFAP発現の臨床的知見)

(著者：福本陽二、山田教敬、福田健治、齊藤博昭、建部茂、辻谷俊一、池口正英)

平成21年 Yonago Acta medica 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究では、StageⅢ/Ⅳの進行胃癌患者における癌組織間質の繊維芽細胞由来の Fibroblast activation protein (FAP) の発現を免疫組織科学的に解明した。FAP発現頻度は全体で64% (64/100) であった。FAP蛋白陽性例では、癌細胞のリンパ管浸潤や微小血管浸潤が、FAP蛋白陰性例に比べ有意に高い比率で認められた。また、FAP蛋白陽性例の予後は陰性例に比べて有意に不良であった。これらの結果は、胃癌組織における癌細胞と間質の細胞との相互関係が従来考えられていたものよりはるかに濃厚であり、将来的に、癌組織間質細胞をターゲットとした癌治療の可能性も示唆された。本研究は、消化器癌治療における学術の水準を高めたものと認める。